

《原 著》

術後分化型甲状腺癌における ^{99m}Tc -MIBI シンチグラフィの 転移病巣検出能の検討

^{131}I , ^{201}Tl との比較

長町 茂樹* 陣之内正史* 西井 龍一* Leo G. FLORES II*
中原 浩* 二見 繁美* 田村 正三* 年森 啓隆**
川井 恵一***

* 宮崎医科大学放射線科

** 古賀病院内科

*** 宮崎医科大学実験実習機器センター

要旨 ^{99m}Tc -MIBI の分化型甲状腺癌転移病巣の検出能について ^{131}I , ^{201}Tl と比較した。対象は術後分化型甲状腺癌患者 40 例で、転移あり 25 例、転移なし 15 例であった。陽性率は ^{99m}Tc -MIBI で 68%、 ^{131}I で 84%、 ^{201}Tl で 60% であった。転移リンパ節の陽性率は ^{99m}Tc -MIBI で 56%、 ^{131}I で 78%、 ^{201}Tl で 39%、肺転移の陽性率は ^{99m}Tc -MIBI で 46%、 ^{131}I で 82%、 ^{201}Tl で 55% であった。 ^{131}I 陰性病巣に ^{201}Tl 、 ^{99m}Tc -MIBI の集積が認められる症例の頻度は、肺、リンパ節、肝、骨、脳いずれの臓器についても 30% 以下であった。 ^{131}I の集積陽性群、陰性群ともに ^{99m}Tc -MIBI または ^{201}Tl が集積陽性を呈する群では、陰性群と比較して血清サイログロブリン濃度が高値を示した。

^{99m}Tc -MIBI では ^{201}Tl 同様に ^{131}I と比較して甲状腺癌転移病巣の検出能が低かったが、 ^{131}I シンチグラフィ所見が陰性かつ血清サイログロブリン濃度が高値を示す場合は、甲状腺癌転移病巣の描画法として有用な診断法と考えられた。

(核医学 37: 89-98, 2000)